

まちマチ通信



まちを歩いてみよう！

まちあるきで知る、まちの魅力と課題

地域のことをよく知ろうと、京都市内でもまちあるきが盛んに実施され、ガイドブックでは分からぬまちの魅力や歴史を知る機会となっています。

防災まちづくりの取組の中でも、地域の方々が自らまちを歩いて道幅や建物の状況などを確認し、防災上の課題を共有する防災まちあるきを行っています。地域の方々と専門家が一緒にまちを歩くことで、いつもと違う視点でまちを見ることができ、対策方法のアイディアを出し合うこともできます。



傾いたブロック塀の状況を確認(紫野学区)



昔あった紡績工場の外壁を発見(朱雀第一学区)

昨年秋には、平成27年度から防災まちづくりの取組を開始した上京区正親学区と北区柏野学区で防災まちあるきが実施されましたので、その様子をお伝えします(☞2~3頁)。

また、中京区朱雀第一学区では、朱雀第一小学校6年生の皆さんと「防災」の学習を行いました(☞4頁)。防災まちあるきでは、地域の歴史を地元の方から教えてもらうなど、新たなまちの魅力も発見しました。

防災まちづくりのリーフレットを発行しました！／

京都市ならではの地域コミュニティの防災力を活かした防災まちづくりの進め方や、実際の取組事例などを、市民の皆さんにわかりやすく紹介するリーフレットです。

【配布場所】京都市まち再生・創造推進室

京都市景観・まちづくりセンター

※京都市のホームページでもご覧いただけます。



防災まちづくりのすすめ

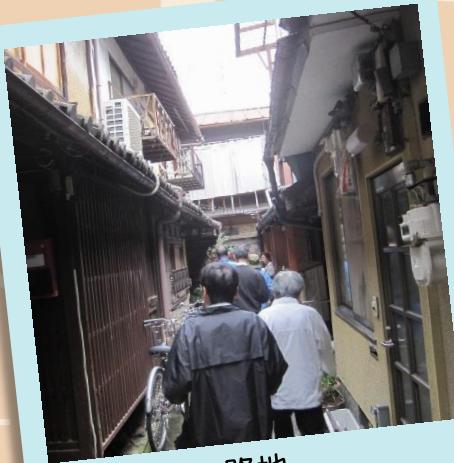


防災まちあるきで マチを見てみよう！

防災まちあるきでは、主に右の項目を確認します。危険を把握するとともに、まちの良いところや災害時に活用できそうなところも探します。

まちあるきでの発見やアイディアをもとに、課題を解決するための具体的な取組の実施につなげています。

せいしん 正親学区 (上京区)



路地

学区内には多くの路地が残り、災害時に避難が困難なものもありました。今後、袋路の避難経路確保等、路地の安全性向上に取り組んでいきます。



トンネル路地

入口がトンネル状の袋路では、災害時に倒壊のおそれがないかどうかを確認しました。



袋路の入口が塞がったら、
ヒニヤン（避難）できなくなってしまうニヤ！
解決のヒントを探すニヤ！

ひにゃんこ



防災上重要な通り
広い通りは、災害時に緊急車両の進入路や避難経路、また延焼防止の役割を果たします。その位置や状況を確認しました。

地域の集合場所では、安否確認を行い、逃げ遅れた人がいた場合には、協力して助け出すなど救助に取り掛かるのじゃ！



地域の集合場所

安全性や避難経路に危険がないかどうかを確認。現地を見ながら、場所や名称の変更を検討する意見も出ました。

参加者アンケートより

- 地域の集合場所を初めて知った。知らない人も多いのでPRが必要。
- 思った以上に空き家が多かった。
- 初めて入る路地がたくさんあり、日常何気なく生活している中にも意外なところに危険が潜んでいると改めて気づいた。
- 自分の町内はもちろん、隣の町内のことも知っておかなければならぬと感じた。



まちあるき後の振り返りの様子

◆防災まちあるきの主なチェック項目◆

- 災害時の避難経路は複数あるか？
- 道が狭くて逃げにくいところはないか？
- 避難経路に通行の妨げになる物がないか？
- 延焼防止や退避場所となる空地はあるか？
- 地震で倒れそうな建物や塀などがないか？
- 管理状態の悪い空き家がないか？

かしわの 柏野学区 (北区)

柏野学区は西陣織で栄え、地主が長屋を建てて職人を住ませたことから、長屋形式の京町家が連なった風情ある町並みが残されています。短冊状の区割りと、あみだ状に入り組んだ道が特徴で、広い道が不足していることが防災上の課題の一つです。

柏野学区での防災まちあるきは、平成27年に2回に分けて実施され、柏野学区自治連合福祉協議会・自主防災会のメンバーと住民の方、延べ約50名が参加されました。今後は、まちあるきで確認した課題を踏まえ、防災まちづくりの具体的な取組や、災害に強いまちの将来像について話し合われます。



細くて入り組んだ道は
ヒニヤン（避難）しづらいニヤ！



細い道
道幅を測り、形状を確認。あみだ状に入り組んだ道が多く、地内に緊急車両が円滑に進入できる道が少ないとわかりました。



古い建物
老朽化が進んだ建物について、倒壊の危険性の有無や管理状況を確認しました。



路地の管理状況
バイクや植木が置かれていると災害時の避難に支障をきたす場合があります。通りやすく整理されているか確認しました。



町並み
時折、機織の音も聴こえる町並みは、まちの大事な資源。この良いところを大切にしながら防災まちづくりを進めます。



まちあるき後の振り返りの様子

参加者アンケートより

- 多くの道路に車などが置いてあり、邪魔をしているのが気になりました。
- 古い家が多くて、火事になったら怖いと感じました。
- 消防車が入る広い道路の確保が重要だと感じたが、町並みは残すべき！
- 情報を共有できるよう、隣近所でものの言える関係を築いていきたい。

地域からの声／

「防災＝福祉」と捉え、災害時に要配慮者に対して何ができるかを考えながら取り組んでいます。

そのためには住民との絆を作ることが大切。まちあるきの実施により、住民の関心も高まっています。

こうした活動を続けていくことが一番の防災です。今後も、一人暮らしの高齢者への対策等、地域特有の課題の解決に取り組んでいきます。”（片桐委員長）



正親学区
防災まちづくり委員会
尾崎 富美雄 会長

地域からの声／“まちあるきでの発見は、誰かが課題だと感じたことを他の人たちも同じように課題と感じていたということ。住民同士が共通意識を持つ良い機会となりました。

今年1月に委員長を任せましたが、中島会長の『みんなが協力し合って地域をよくしていきたい』という想いを受け継ぎ、長年お住まいの方から若い方まで幅広い方々とともに、20年後、30年後のまちの姿を話し合っていきたいです。”（片桐委員長）



柏野学区自治連合
福祉協議会
中島 重男 会長
片桐 直哉 委員長



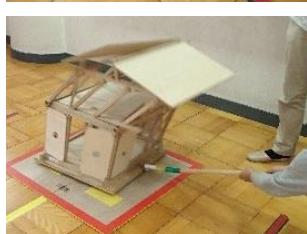
朱雀第一小学校 「防災について考えよう」



特別企画！

防災まちづくり活動2年目の朱雀第一学区では、朱雀第一小学校の総合的な学習の時間で「防災」の授業が行われました。防災まちづくり協議会や建築士会の協力のもと、66名の6年生の皆さんが楽しく真剣に学び、自分たちのまちの防災対策への意見やアイディアをたくさん出してくれました！

■授業の様子 間違い探しや住宅の模型を使いながら防災まちづくりについて学んだ後、防災まちあるきを行いました。防災まちづくり協議会の方々と一緒にまちを歩き、地域の歴史や防災の取組について教えてもらいました。



学習① 防災まちづくりって？



学習② まちあるきの計画



学習③ 防災まちあるき 防災まちづくり協議会の方の説明も聞けました！

■授業のまとめ



防災まちあるきで得られた発見や考えたこと、大事だと感じたことなどを壁新聞にまとめました！

地域の方にご覧いただける場所で掲示するとともに、朱雀第一学区の防災まちづくり計画にも反映させていく予定です。

先生たちからの声／

「防災の授業は、自分たちの地域が多くの方に守られていることに感謝し、見直す機会になると考え実施しました。

授業中は、普段より多く発言する子や、講師の方々と積極的にふれ合う子もいて、有意義な時間を過ごせました。卒業を控え、地域を守り発信する側になっていく子どもたちにとって貴重な経験になりました。」



朱雀第一小学校
岡田 哲平 先生



朱雀第一小学校
村山 水麻 先生

「この授業の効果もあって、子どもたちが防災の問題を「自分ごと」として認識できるようになってきたようです。先日、実際に地震が起った時には、大人顔負けの冷静さで、自分たちで考え、的確に行動することができました。」



<お問合せ・ご相談はこちらまで>

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室（密集市街地・細街路対策担当）

TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■ 京都市印刷物 →パック

第275335号 ナンバー

平成28年2月発行 はごちら



京都市
CITY OF KYOTO

DO YOU
KNOW?

京都まちづくり
コミュニケーション

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！